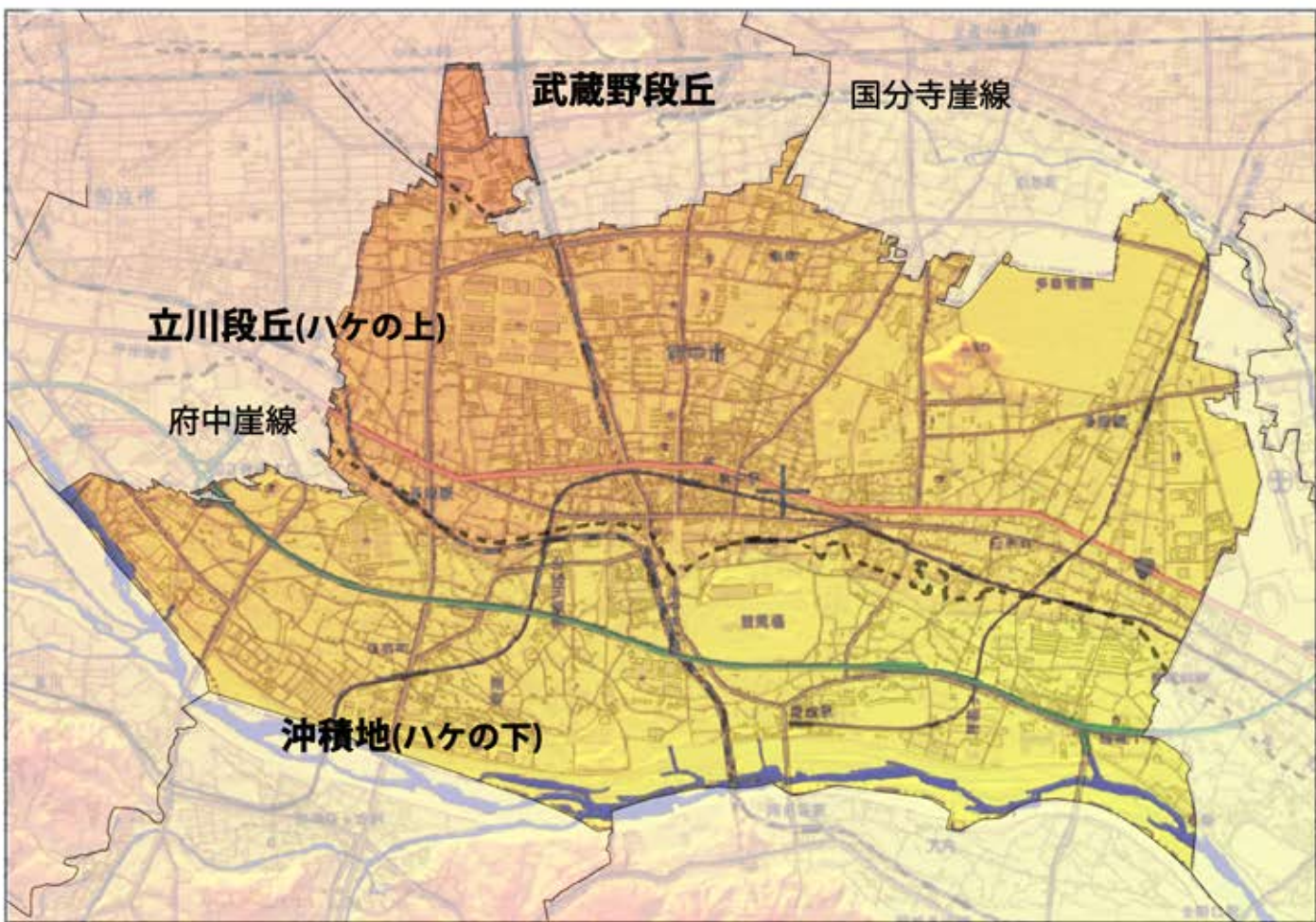


私たちの住む町

府中市

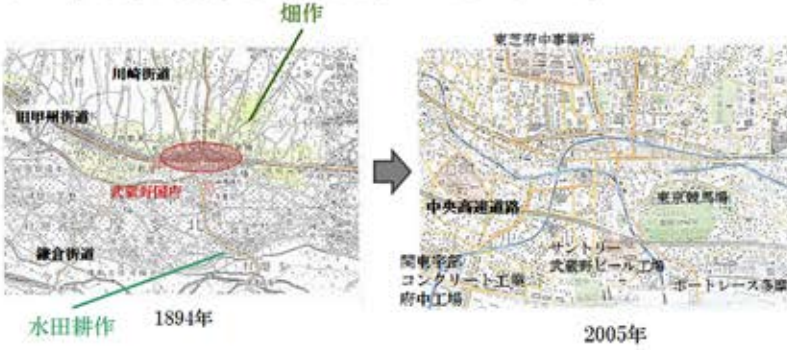
18N1094 中釜英里香



立川段丘(ハケの上)

ハケの上と呼ばれるこの地域は、旧甲州街道や人見街道、府中崖線に沿った道など古くから交通路が走る。これらの道に沿って集落が存在し、中世より畑作を中心とした農業がおこなわれていた。

現在は交通路(甲州街道や京王線など)はもちろん各工場(東芝府中工場など)や市街地・住宅地等が立地している。

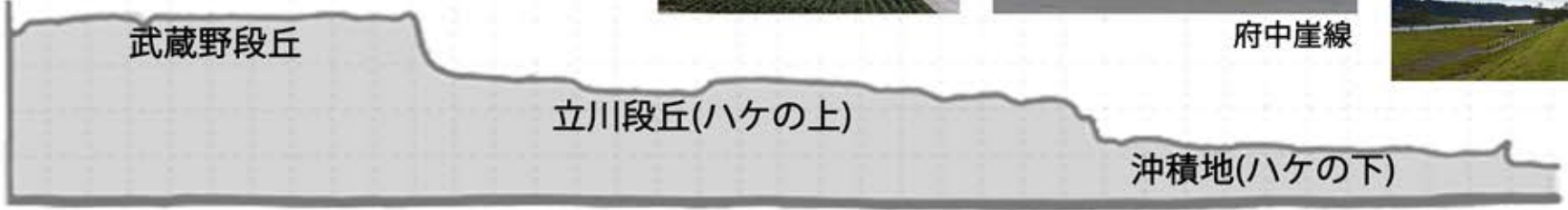


沖積地(ハケの下)

ハケの下と呼ばれるこの地域は、川筋にそって集落が形成され、主に水田耕作が行われた。

現在は各工場(日本電気府中事業場やサントリービール武蔵野工場、コンクリート製品製造工場など)が建ち、中央高速道路の建設も行われた。

また昭和初期に行われた砂利採掘穴を埋め立てて宅地として利用されていたり、ポートレース多摩川として利用されている。



高安寺

寺は平将門を討ち取った功績で武蔵野守となった藤原秀郷の館跡であった。

鎌倉時代末期から南北朝の戦乱の時代には、崖の上にあったためこの寺はしばしば合戦の本陣(足利氏満、満兼、持氏、成氏その後上杉氏、後北条氏らが利用したとされている)となった。

1305-1358年 室町幕府の将軍足利尊氏が、元々この地にあった市川山見性寺を再興し、龍門山高安護国禪寺と号した。

尊氏は国と人々の平和を願って全国に安国寺や利生塔を建てた。武蔵国の安国寺が高安寺である。

江戸時代初期まで臨済宗の寺院であったが、慶長年間(1596-1615年)、青梅海禅寺の末寺となり、現在の曹洞宗の寺院となった。

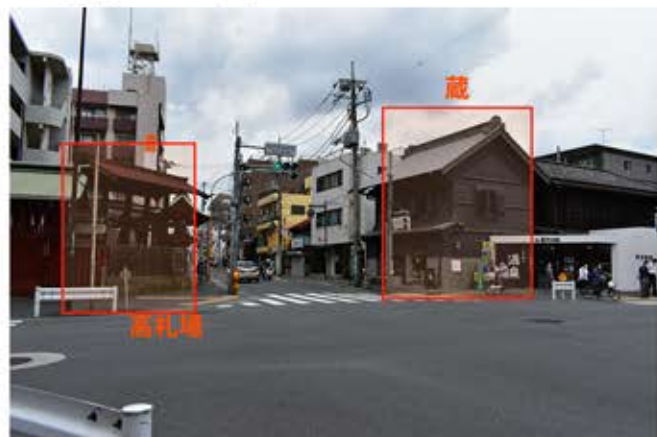
現在の本堂は享和3年(1803)、山門は明治5年(1872)、鐘楼は安政3年(1856)の建立で、東京都選定歴史的建造物に指定されている。



弁慶が清水を汲み取ったとされている境内にある古井戸

時代が入り混じるみち

01 名前のみが残る



道幅が広い

旧甲州街道 江戸時代(1604頃)

江戸幕府が甲州街道をひらき、府中が宿場となる。



大正5年



現在

鎌倉街道 鎌倉時代(1180頃)

源頼朝が全国に号令をかけて、鎌倉を目指した途中で府中に入り、宿駅となったと考えられる。



現在

跡形もない。周辺の建物にも特徴がみられなかった。

02 緑道(歩行者・自転車専用道路)



もともと道路以外での用途

府中用水 江戸時代(1693頃)

玉川上水ができて、農業・生活用水の確保のために整備された。



昭和2年



現在

国鉄下河原線 明治時代~(1693頃)

東京砂利鉄道は、多摩川の砂利の採取運搬を目的に計画された。その後、通勤者専用電車を運転、戦後常時運転が開始されたが、武蔵野線の開通に伴い廃止された。



下河原鉄道運行当時



現在

道の整備が進み、どんどん消えかかっている。今後跡すら無くなる可能性が大きい。

03 あまり変わらない姿で残っている



主に寺院・神社周辺

けやき並木 平安時代(1062頃)

源頼義・義家が大国魂神社にけやき1000本植える。



大正5年



現在

銅像



新田義貞像



分倍河原の合戦跡

府中市を歩いていると銅像・石碑が多いように感じた。特に鎌倉時代に関するものが多く、鎌倉時代に影響を与えるような場所であった。



1896~1909



1965~1968



1998~2005



高札場 江戸時代

高札場とは、江戸時代に幕府の政策や禁止令などを墨で書いた板の札（高札）を掲示する施設である。村や宿場などの中心地に設けられ、幕府の威光を示す重要な役割を果たしていた。



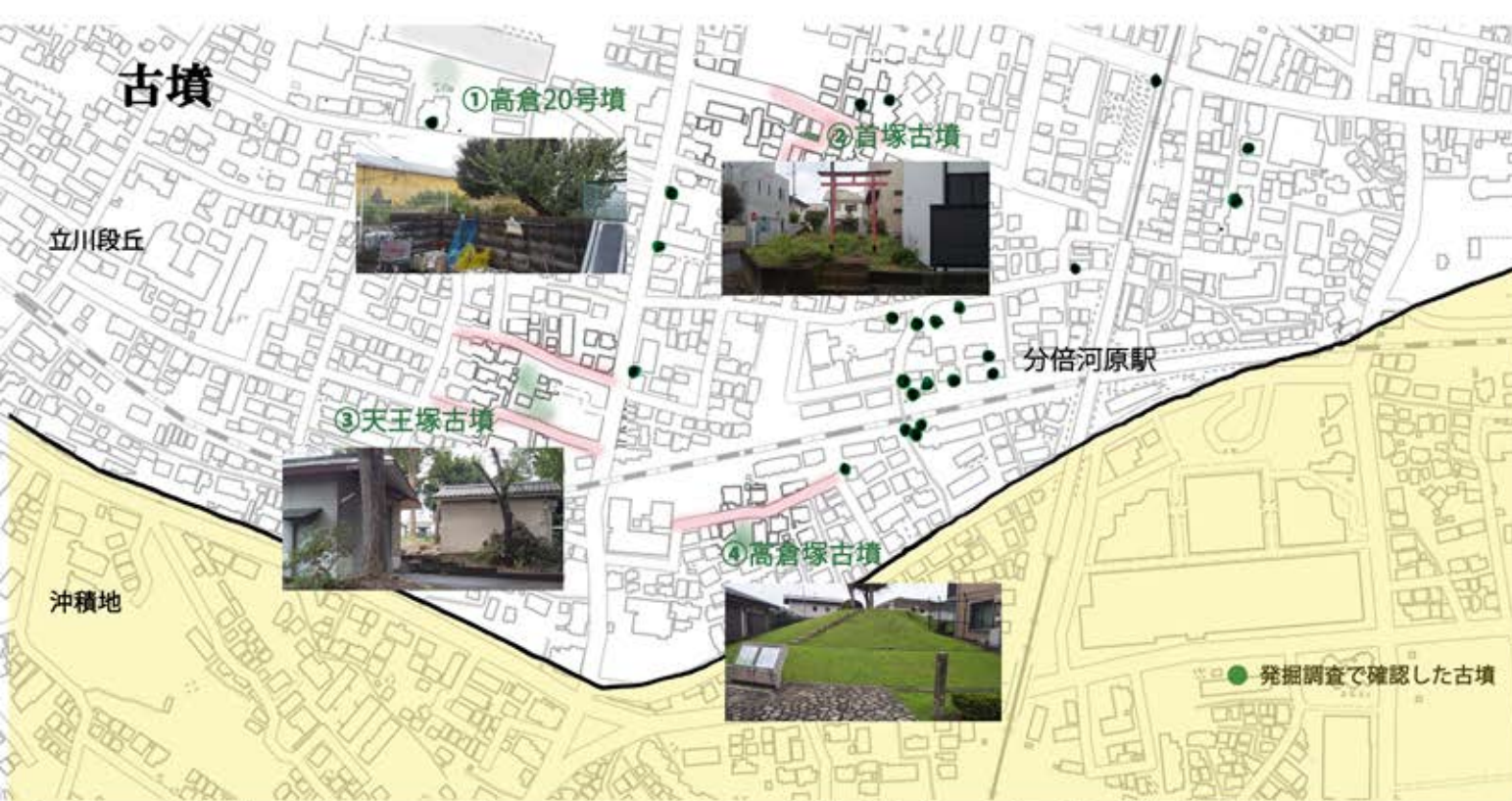
①中久本店
 店舗 万延2年(墨書き)
 母屋 昭和7~8年頃
 酒蔵 明治中期
 近年の再開発でかつての姿を留めていない中で、趣のある蔵は存在感を感じられる。
 また色使いが面白いと思う。高札場の赤に対して、黒い漆喰で仕上げている所が妙に美しい。



②店舗兼住宅
 母屋 昭和5年(1930)頃
 屋根(入母屋複合造)がすごく特徴的であまり見ない形になっている。
 店舗の部分がいまは見られない。周りにマンションが建ってしまっているので不思議な感じである。
 店舗兼住宅が旧甲州街道通り沿いに多く残っているように感じ、もっと昔はにぎわっていたのが感じられる。



③三田商事株式会社
 店舗・蔵 昭和初期
 蔵の外装や細部装飾に洋風の意匠が見られる。※店舗兼住宅は取り壊されてしまった。
 蔵がこんなマンションだらけの真ただ中にあることが不思議で、残っている蔵それぞれに違う装飾や時代の特徴が見られる。また今ある蔵が全て交差点に面しているのが気になった。



府中市には古墳が多く存在している。特に私の住んでる場所は高倉塚古墳群や天王塚古墳、首塚古墳がある場所である。

②首塚古墳



③天王塚古墳



神社の中にあるため、あまり外の特徴がなかった。

④高倉塚古墳



古墳の形がわかる程度に整備されておりこのあたりから30基出てきている。①高倉20号墳も高倉塚古墳群の一部で、現存しているものは、希少である。ここも道が蛇行していた。避けているが避け切れていないようにも感じた。

熊野神社古墳

国内最大・最古の上円下方墳で、1段目が約32メートルの方形2段目が約24メートルの方形、3段目が直径約16メートルの円形を呈する3段築成の古墳



古墳によって熊野神社が曲がっていたり、周囲の道にも避けるように通っていることがよくわかる。

完全に住宅の中にあり、稲荷がなければ気づかないくらいで、古墳自体は木が切られていたり、荒れ放題であった。道が不自然に蛇行している箇所が、付近で見受けられ、おそらく古墳を避けているように思われる。



この神社周辺全体が崖線ではないのに、古墳の上にあるかのように傾斜がきつかった。

まとめ

大國魂神社周辺や関連施設は歴史が守られている部分が多かった。

道に関して

大通りはほとんど名前がついているぐらいで、いたって普通の幹線道路になっていた。ただ、旧甲州街道沿いにある高札場周辺の建物には江戸から昭和にかけて建てられた蔵や住宅がいくつか残っていた。

緑道はもともと道ではなかったことがわかった。また、少しその名残を見ることができる。

古墳に関して

とにかく関心が薄いのか扱いがひどい。完全に古墳が周辺の建物によってなくなっていたり、あまり状態は良くないように感じた。

住宅街になっているのだがおそらく古墳の上に建てられているとも考えられる。

参考文献

今昔マップ <http://ktgis.net/kjmapw/>

国土地理院 <https://www.gsi.go.jp/>

東京都府中市ホームページ <https://www.city.fuchu.tokyo.jp/kirari/index.html>

府中市観光協会 <http://www.kankou-fuchu.com/?p=we-page-entry&spot=40303&cat=15354&type=spot>

府中市教育委員会 <https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/>

※1 新版 武蔵国府のまち 府中市の歴史 府中市教育委員会

府中市の歴史的建造物 府中市教育委員会